



HANDA CUP第57回全日本プロボウリング選手権

12月14~16日/新狭山グランドボウル

あっぱれ! 中島瑞葵が史上最年少の全日本女王に

2023年JPBAレギュラーツアーの掉尾を飾る「第55回全日本女子プロボウリング選手権大会」は、昨年までの東大和グランドボウルから男子と同じ新狭山グランドボウルに会場を移して行われ、プロ3年目・19歳の中島瑞葵(53期・小嶺シティボウル/ABS)が大会初制覇(今季5勝・通算8勝目)。史上最年少で全日本女王の座に就くと同時に、ポイント・アベレージ・獲得賞金の年間ランキング3部門も制して初の3冠女王に輝いた。(共催：(公社)日本プロボウリング協会/(一社)国際スポーツ振興協会) ※7面に関連記事



▲大ブレイクのシーズンを初の全日本制覇で締めくくった中島、10フレ1投目で構えたときに自分の足が震えているのが分かった。そのうだが、見事優勝を決めるストライクに喜びを爆発させた

コアの我慢比べに。大根谷が4フレを⑥⑦スプリットオープンとすると、久保田は⑥⑩をカバーミスしてお付き合い。9フレまで、ストライクはともに単発の2発で、勝負の行方は10フレに持ち越された。

1投目、先投げの久保田は④⑩スプリット、大根谷は④⑦残しの8本カウント。カバーできなければ負ける久保田の2投目は、勢いよくバックボードまで飛んだ②ピンがハネ返って⑩ピンを払うミラクルショットとなり、久保田が2ピン差で勝利した。

優勝決定戦

トップシードの中島は右レーンスタートを選択。ともにストライクで始まったゲームは2フレ、中島が「ちょっとボールを持ってしまった分、内ミスして」③④⑦⑩スプリットオープンと



▲シーズン最終戦の全日本女子、4名のファイナリストはいずれも今季優勝を飾っているタイトルホルダーだった

したが、すぐに修正して再びストライクを連ねていく。

対する久保田の投球は正確にポケットを突き続けるも、右レーンでは⑩ピンが飛んでくれず、6フレまでダッチマン。じりじりと差は開き、中島は10フレ1投目、8連続となるストライクで勝利を決めた。トップシードを獲得した時点で年間ランキングの3冠が確定していた

中島には、多分に心の余裕もあったのだろう。

19歳での全日本制覇は史上最年少記録。今季これが5勝目と勝ち慣れている?中島もさすがに感極まり、ギャラリーの祝福の手拍子に乗って投じた最後の1投は涙があふれてピンが見えず、④⑥⑦⑩のビッグフォーを残したのはご愛敬。何とも微笑ましい幕切れの光景だった。

予選 Part I (12G) 13名、Part II (6G) 5名、Part III (6G) 6名、準決勝(9G) 2名。これは各ステージ終了時点のトータルで200超のアベレージをマークしたプロの人数だ。

男子の全日本でも「難しい」と言われる新狭山グランドボウル。大半のプロがスコアメイクに苦しみ、トーナメントリーダーはゲームごとに目まぐるしく入れ替わった。東大和で行われた昨年より、概算で10点近く大会アベレージが下がっていることを考えると、これはステージごとに異なるコンディションに悩まされたというより、女子プロには使い慣れない会場でレーンの「クセ」をつかみあぐねたからだろう。

結果、「打ち合い」ではなく「凌ぎ合い」の様相を呈した今大会。ポイントランキングで2位に付けていた坂本かやは同30位で予選敗退、前年覇者の土屋佑佳は準決勝16位、3冠女王の姫路麗も同6位で涙を呑み、決勝のステージに生き残ったのは、トップシードの中島をはじめ大根谷愛、久保田彩花、川崎由意の4名だった。

4位決定戦

久保田 VS 川崎の48期生対決となった4位決定戦は、ラッキーストライクを含む7連発ス

タートを決めた川崎がゲームの主導権を握った。対する久保田も2フレで⑩ピンをカバーミスしてオープンとしたものの、5フレからジャストポケットのストライクを連ねて追いつく。

迎えた10フレ。川崎はマークさえすれば勝ちという状況だったが、久保田の1投目ストライクを見て無意識に力んだが、内ミスしてまさかの⑥⑦⑩スプリット。「2本を取りつつ狙いに行った」カバー投球は出過ぎてガターに落ち、パンチアウトした久保田が大逆転勝利を決めた。

3位決定戦

大根谷 VS 久保田の3位決定戦は、両者とも急激に変化したレーンのアジャストに苦しみ、3位決定戦とは一転してロース



▲ピン差の接戦を落として3位敗退の大根谷は、全然幅を感じられない難しいコンディションだったと苦笑も「全日本でのひととけタ入賞は初めて。ランキングが4位まで上がったのでうれしし」



▲4位決定戦は5フレからの8連発で大逆転勝ち、3位決定戦は10フレ的に相手を手助けしてしまっただけ

今月の表紙 優勝・中島瑞葵

新狭山で投げるのは初めて。難しいと聞いていたし、1週前に男子の全日本を観たときもそう感じたけど、やっぱり難しかったです(苦笑)。

決勝のレーンは、最初の15分と3位決定戦前の4分の練習ボールのときは内壁を感じていたけど、優勝決定戦前の4分ではもう感じなくなっていた。左レーンより内壁を感じて、外のオイルも薄く感じた右レーンを10フレにしようと思ったけど、いずれ飛ばなくなるだろうと考えて右スタートに。右レーンは外ミスもOKだったし、左のレーンも2、3枚くらいの内ミスは許容範囲だったので、自信を持って投げられました。

この一年は出来過ぎだった分、悩みもしました。いい思い出も悔しい思い出もしたシーズンでした。予選落ちしたMKチャリティカップのあとに、師匠の柴田(英徳)プロから「体幹を鍛えろ」と言われて、ちょっとずつトレーニングを始めてからボウリングがよくなったように思います。



ターニングポイントはちゃおちゃおボウリング大会ですね。あのときも調子が悪くて、予選を通過できればいいかな...と、正直勝ちにはこだわっていませんでしたが、師匠から「A公認の大会で優勝しろ」と言われて、一つひとつのゲームを丁寧に投げた結果が優勝につながって、自信になりました。

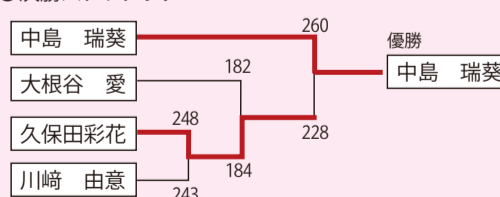
次の目標は「10勝」です。来年はまたゼロからのスタートで、今年みたいにうまくいとは思っていないけど...うまくやりたいですね(笑)。

優勝ボール: アクキュライン・ツアープレミアム セブン(ABS)



▲勝利濃厚だった4位決定戦の10フレ1投の逆転負け。最後はもったいない結果でまさかりができたかなと思つた

決勝ステップラダー



優勝決定戦

| | | | | | | | | | | |
|-------|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 久保田彩花 | 20 | 40 | 60 | 80 | 100 | 120 | 150 | 180 | 208 | 228 |
| 中島 瑞葵 | 17 | 24 | 54 | 84 | 114 | 144 | 174 | 204 | 234 | 260 |